

日本歯周病学会 第100回 歯科衛生士教育講演会 報告

1. 研修会名 :日本歯周病学会第100回歯科衛生士教育講演会(日本歯科衛生士会第5次生涯研修)
2. 主 催 : 特定非営利活動法人 日本歯周病学会 (歯科衛生士関連委員会)
3. 協 力 : 一般社団法人 日本歯科衛生士会
4. 日 時 : 2023年11月26日(日) 10:30~15:30
5. 場 所 : 福井県織協ビル ホールB 福井県福井市大手3-7-1
6. 演 題 : 1) 歯科衛生士は歯周基本治療でどこまで治せるか
2) 歯科衛生士が知るべき全身疾患と生活習慣病
7. 講 師 : 1) 野村 正子 (日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会副委員長)
2) 西田 哲也 (日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会委員)
8. 研修単位 : ①②に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能
 - ① 日本歯周病学会会員の場合
 - ・ 認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位 (8単位)
 - ・ 更新時の生涯研修単位 (10単位)
 - ② 日本歯科衛生士会会員・会員外の場合
 - ・ 第5次生涯研修制度に基づく専門研修単位 (歯周治療の基礎技術)
 - V. 歯周治療の補助に必要な知識と技術
 - A. 歯周基本治療について (2単位)
 - I. 歯周治療の基礎
 - E. 全身疾患、生活習慣病に関する知識 (2単位)
9. 内 容 :

午前は、野村講師による「歯科衛生士は歯周基本治療でどこまで治せるか」という演題で、歯科衛生士の行う歯周基本治療についての講演が行なわれた。歯周基本治療において、SRPと歯磨き指導は歯科衛生士の重要な業務である。しかし、歯磨き指導と歯面研磨(歯肉縁上のプラークコントロール)ばかりに時間を費やしている歯科衛生士が多いことも事実である。歯周基本治療においては、患者さんが自分で到達できない歯肉縁下のプラークコントロールを行うプロが歯科衛生士であるという自覚を持って日々臨床に励んでいただきたいという内容であった。そのためには、正確なプロービングで、SRP後の再評価(歯肉縁下の炎症の有無の確認)を継続することが不可欠である。

引き続き、福井県内唯一の認定歯科衛生士の定政由佳さんによる、歯科衛生士が歯周基本治療のみで治癒した症例の報告がなされた。

午後は、西田講師が「歯科衛生士が知るべき全身疾患と生活習慣病」という演題で、様々な全身と歯周病の関連について講義を行なった。日本人に多い歯周病と全身疾患(糖尿病等)の関係のみならず、コロナ禍で関心の高いワクチンや、撲滅された天然痘についてなど多岐にわたる内容であった。また、生活習慣病としての糖尿病の知識に偏らず、1型と2型の違いの説明も行われた。歯科衛生士も様々な患者さんと接する一個人として、視野の広さが大切だと理解できた。科学的根

抛をしっかり持ち、相手に早くわかりやすく伝える KURZGESAGT という海外ユーチューブの紹介もなされた。

最後の Q&A では、認定歯科衛生士取得希望者より、口腔内写真についての質問があり、初診時に写真を撮ることの大切さのみならず、撮り方に関するアドバイスも行われた。

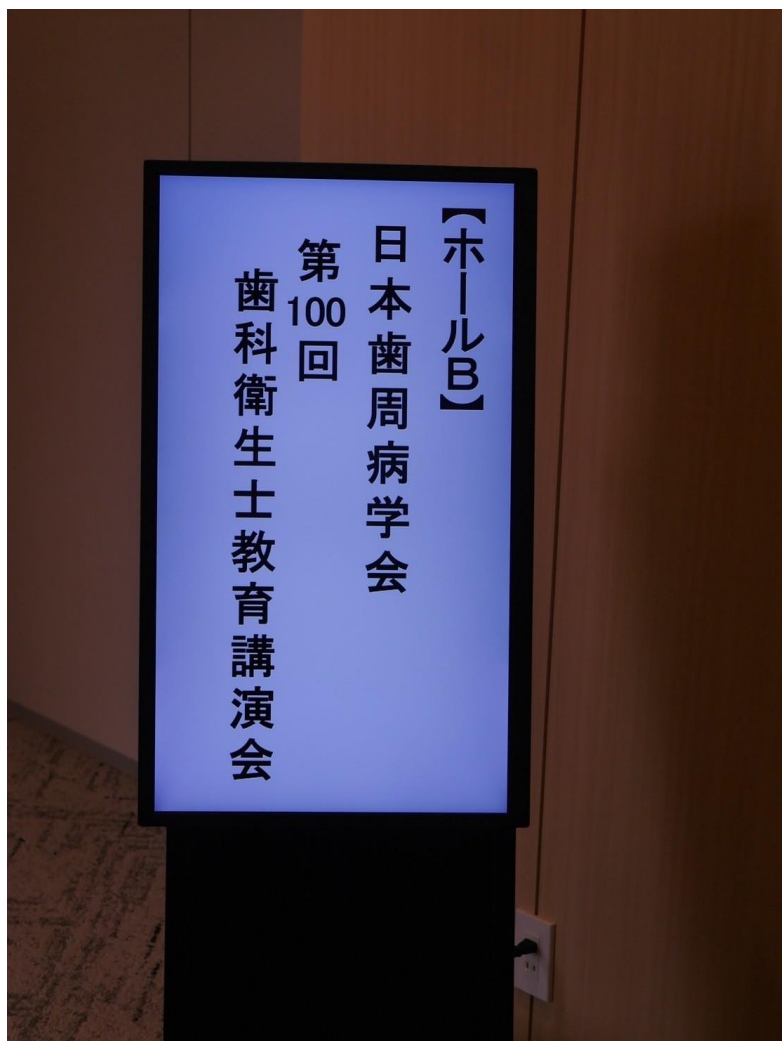
10. 感想：

参加者 55 名中 47 名のアンケートが回収された。

内訳は日本歯周病学会会員 6 名、日本歯科衛生士会会員 29 名だった。日本歯科衛生士会会員は、福井県歯科衛生士会が 27 名、石川県歯科衛生士会が 1 名、東京都 1 名であった。日本歯周病学会会員 6 名中認定歯科衛生士は、福井県 1 名、岐阜県 1 名、滋賀県 1 名、東京都 1 名の計 4 名であった。現行では北陸新幹線が金沢（石川県）止まりなので、来年（2024 年 3 月）の福井県延長で、北陸地方の歯科衛生士にとって対面講演参加の交通移動は、より便利になると思われる。

他学会からの参加者は、日本口腔インプラント学会 1 名、日本口腔ケア学会 1 名、日本歯科衛生教育学会 2 名であった。

福井県内は、研修に熱心な歯科衛生士が多いにもかかわらず、認定歯科衛生士、専門医、認定医ともに少ない。来年 2024 年 3 月に開催される北陸地方臨床研修会への参加を、福井県歯科衛生士会を通して呼びかけたいと考える。



第 100 回目となる歯科衛生士教育講演!!



歯科衛生士教育講演（午前） 野村講師



歯科衛生士教育講演（午後） 西田講師



歯科衛生士教育講演（Q&A）西田講師